

島根高P連だより

第53号
2017.12.15

発行・編集 島根県高等学校PTA連合会事務局 松江市黒田町538 TEL/0852-22-8602 FAX/0852-22-8735
E-mail : shimakp@orange.ocn.ne.jp URL : http://www.shimakp.sakura.ne.jp/



隠岐高校

卯敷海岸への遠足



合唱部
～Nコン中国大会出場～
大社高校

第2回 アジアユース陸上競技選手権
100mハードル準優勝 長崎さゆり



陸上部
～アジアユース大会銀メダル～



体育科キャンプ実習



学園祭PTA模擬店



体育祭～部活動対抗リレー～



文化祭～仮装大会～



郷土芸能部の公演



地元企業説明会



文化祭～お祭り～



地元公民館奉仕作業

浜田商業高校



浜商デパート2016

目次

- 平成二十九年度 島根県高等学校PTA連合会研修会 2
- 第六十七回全国高等学校PTA連合会大会 静岡大会 3
- 静岡大会第一分科会 発表
島根県立矢上高等学校PTA会長 大屋 光宏 3
- 全国高P連団体表彰校実践報告 4
- 第59回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会 山口大会 5
- 世界大会出場 会長激励費贈呈 出雲農林高校力又一部 5
- 平成二十九年度島根県子ども園・小中・高・特別支援
PTA合同研修会 6
- 平成二十九年度 県教委との意見交換会 6
- 第七十回全国高等学校PTA連合会大会島根大会準備状況 6

平成二十九年度 島根県高等学校PTA連合会研修会

十月二十八日(土)にサンラポールむらこもで平成二十九年度島根県高等学校PTA連合会研修会を文部科学大臣補佐官鈴木寛氏を招聘し「これからの高等学校教育を考える」をテーマに開催した。当日は高P連会員、県教育委員会関係者等六十四名の参加があった。以下は、研修会の概要である。

【1】なぜ、今教育改革なのか

現代は、人工知能やロボット技術などの技術革新、高度情報化、グローバル化、少子高齢化が急速に進み、激動の時代に入っている。二十二世紀まで生き、二十二世紀を創る児童・生徒に、大量生産にふさわしい力(マニュアルを覚え正確に速く再現する力や定型業務を処理する力など)の育成を特徴とする二十世紀型の教育を続けることは、大量の失業者を養成し続けていることと同じである。

【2】二十一世紀の社会はどうなるか

すでに大量生産が行き過ぎて大量廃棄、大量のエネルギー消費、CO₂の排出など環境問題が深刻化している。大量生産から知的な創造に、社会の複雑ないろいろな難問を解決することに価値がおかれるようになってきた。人工知能やロボットが進化し、インターネットによって人間だけでなく、機械同士がつながる時代が来る。大量生産、定型業務や反復作業の多くは、このようなデジタルテクノロジーに取って代わられ、人間の仕事ではなくなる。

野村総合研究所と英国オックスフォード大学のオズボーン准教授が十～二十年后に「なくなる仕事となくなる



研修会の様子

の協調や他者の理解、他者を説得することが求められる仕事もAI等での代替は難しい。

五〇%の仕事がなくなると聞けば不安に思うかもしれないが、六〇%の付加価値の高い新しい仕事を創造すればよい。日本の学校教育を受けた若者がチャンスをものにし、生き抜く力を養うことが学校教育に求められている。

【3】二十一世紀の人材と教育

二十一世紀の教育のキーワードは、「板挟み」と「想定外」である。二十一世紀型の人材は、激動の時代にあって、仲間と協力しあいながら、様々な「板挟み」と向き合っており、乗り越えることができる人材であり、そのような人材をどうやって育成するのかこれがこれからの教育のテーマとなる。プロジェクト・ベースドラーニング(Project Based Learning: 課題に基づく学習)を行い、実際の課題や問題に基づく学びを進める。このような学びでは必ず「板挟み」になり、「板挟み」が学びの契機となる。今までの教育は「板挟み」を避けてきたが、「板挟み」は人間を成長させる好機であり、チームのメンバーと問題を解決していくような人材が育つ。

釜石の奇跡(東日本大震災で釜石の小中学校では登校していた子どもたちは全員無事だった。中学生は小学生や地域のお年寄りの手を引き、多くの命を救った)の源は、二〇〇四年から進めていた「想定外を生き抜く力」と題した群馬大学の片田先生の防災教育であった。そのポイントは三つある。「想定外やマニュアルに頼りすぎない」「どんな時でもミスを恐れず、最善を尽くす」「指示を待たずに率先者になる」である。二十世紀の教育はともすると「マニュアルをしっかり覚える」「ミスをすること」「指示を待てる」という教育をしてきたのではないか。これから起こる様々な「想定外」を生き抜く力を育成する必要がある。

もちろん知識・技能の習得も大事だが、それ以上に重要なのは「板挟み」や「想定外」に向き合い乗り越えられる人材、AIで解けない問題・課題・難題に向き合える人材、コミュニケーションをとりながら創造的協働的活動を創発しやり遂げる人材の育成が二十一世紀型の教育のめざす人材育成である。

【4】高校教育改革と高大接続改革について

二十一世紀の社会で必要とされる人材の育成をめざして学習

指導要領を変えようとしている。新学習指導要領が目指す学力は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的な学習者」「主体的・対話的な深い学び」である。今回の改訂のキーワードは小中高を通じてアクティブラーニングである。主体的に多様な人と協働し、指示を待たず、難問から逃げない、むしろ難問をみたらチャンスと思う主体的な学習者の育成を目指している。

わが国では学力の三要素を学校教育法第三十条で定めている。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」そして「主体的に学習に取り組む態度」である。小学校段階ではこの要素がバランスよく行われてきたが、高校になるときわめて残念ながら「知識・技能」に偏った教育になっている。なぜ、言語活動や探究を重視する学習指導要領が無視されるのか、それは、文部科学省や法律よりも影響力の強いもの、すなわち「大学入試」があるからである。

今回の改革は、高校教育、高大接続(大学入試)、大学教育の改革をセットで行うことによって、高校の現場をこの三つの要素がバランスのとれた学びに変えようとするものである。

二〇二〇年から新しく「大学入学共通テスト」が始まる。「知識・技能」に加え「思考・判断・表現」を評価するため、八十(百二十)程度の記述を国語と数学に導入する。同時に国立大学の入学試験がかなり変わる。現段階で記述式(二百～三百文字)を導入している国立大学は四割しかないが、このような状況を変え、国立大学の場合は百%にする。少なくとも、ものを書いた人たちに入学してもらおう。

主体性・協働性を一回の入試で問うことは不可能である。高校三年間の活動実績(理数探究・総合探究の活動、部活動、授業以外の様々な活動)を評価するために、国立大学の定員の三割をAOまたは推薦入試にする。すでにその動きは出ており、現在約二割の国立大学でAO・推薦入試が実施されている。

私立大学についても、記述式が定着していく。私大希望者も「大学入学共通テスト」を受けられるので、深い判断力・思考力を問うための記述式が定着し、そして三年間の活動を評価していくことになる。

このような新学習指導要領に基づく高校教育改革と高大接続改革により、二十一世紀の社会で必要とされる人材の育成を図る。



鈴木寛氏講演

第六十七回全国高等学校PTA連合会大会 静岡大会
「有徳の人」づくり
 『未来のために行動する「一人」を育てよう』



今年の全国大会は、八月二十四日（木）～二十五日（金）に、静岡県袋井市の小笠山総合運動公園エコパを主会場、静岡市の市民文化会館と清水文化会館マリナート、浜松市のアクトシティ浜松をサブ会場として開催された。「有徳の人」づくり～未来のために行動する「一人」を育てよう～を大会テーマに本県からの六十七名を含め全国から約一万人の会員が参加し、様々な協議を繰り広げた。開会式・表彰式に続き、静岡大学名誉教授小和田哲男氏を迎え、「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」と題して講演があった。戦国時代の武将たちがどのようなに人の才能を見だし、人材を育てたかなどの紹介があり、子育てと人づくりについて参考となる話であった。

午後からは七つの分科会場でそれぞれ研究発表が行われ、基調講演やパネルディスカッションが行われた。第一分科会では矢上高校の大屋光宏会長の「高校存続と魅力化～地域と学校を結ぶPTA～」と題した発表が行われた。下段にその内容を記述する。

翌日の記念講演では、静岡県出身の篤利夫氏による「篤利夫の生きざまだ！」と題して講演があり、自身の幼少期からの様々な体験や人との出会いを、舞



全体会



矢上高校 発表



広報誌展示

台や映画、TVでの活躍を独特の語り口でユーモアたっぷりのトークショーとなり、観客を魅了した。

講演後は、前日行われた分科会の報告に続いて、閉会式が行われた。牧田和樹大会会長より閉会の挨拶があり、大会宣言を満場一致で採択した。さらに次期開催地である佐賀県に大会旗が渡り大会が終了した。

なお、開会の中で表彰式が行われ、島根県からは次の団体、個人が表彰された。

- 優良PTA文部科学大臣表彰
 隠岐島前高等学校PTA
- 全国高P連会長表彰（団体）
 隠岐島前高等学校PTA
- 全国高P連会長表彰（個人）
 松江南高等学校PTA
- 松本 真佐子（松江東高等学校）

また、全国単位PTA広報誌展示コーナーでは、県内から安来高校の「安高PTA会報」、三刀屋高校の「PTA会報」の展示があった。

静岡大会第一分科会 発表
高校存続と魅力化
 『地域と学校を結ぶPTA』
 島根県立矢上高等学校PTA会長 大屋 光宏

一、はじめに
 矢上高校は、島根県中央部の中山間に位置し、来年度創立七十周年を迎えます。定員は一学級三十人で普通科二学級、産業技術科一学級からなる小規模校です。産業技術科は、動物・植物・工業の三コースあり、寮もあることから県外からの応募も多くあります。

二、学校教育とPTA
 普通科二学級の小規模校において、学級減は教科・科目の選択肢の幅が狭まり、生徒の進学に影響が大きく、産業技術科の廃止は地域産業への影響が心配されます。

このため、学校教育の維持・充実のためには現在の体制を維持することが絶対的条件であり、矢上高校のPTA活動は生徒募集と学校の魅力を高める事業への協力を中心となってきました。

三、生徒募集の方法の変化
 生徒募集は、当初は寮の整備・通学助成・寮費の負担軽減などの金銭的支援から始まりましたが、近年は高校の魅力をも高めることに重点が変わってきました。

平成二十七年三月には矢上高校の永久存続と四十人学級への定員復活のため、五十八項目の活動目標を定めた「矢上高校将来ビジョン」を策定しました。

四、定員削減と県外生徒の増加の影響
 入学定員の削減による生徒と教員の減少は、マンパワー不足とPTA会費の収入減につながり学校生活・教育活動・PTA活動に影響ができました。また、町外・県外生徒の増加によりPTA

A会員の交流が難しくなってきました。

五、マンパワー不足を補うPTAの活動
 学校生活と教育活動を支えるため、次の活動を行いました。

- ①文化祭でのバザーの応援
- ②入学希望保護者との交流や地区別説明会への協力
- ③職場体験など地域連携の窓口
- ④ICT機器（プロジェクト・書画カメラ、スクリーン）の全教室配置

六、PTAの体制強化と会員交流
 近年は、会費収入の減少により自らの活動が縮小してきていたため、会員の研修活動を充実するためPTA会費を年五千円から六千円に値上げしました。

また、役員に町外で寮生の保護者に就任していただくとともに、総会時に研修会を実施するなど新たな取り組みも行っています。

七、PTA活動の活性化
 町外・県外からの保護者が増えることはPTA活動への理解や協力が得られかどうか不安もありました。しかし、実際には選んで矢上高校に進学してきたことからPTA活動に関心が高い保護者も多く、結果的には活動が充実してくるなど良い刺激を受けています。



県外からの入学希望保護者との交流



ICT機器を活用した授業

●全国高P連団体表彰校実践報告●

「交流」

島根県立隠岐島前高等学校PTA会長

万代 勉

平成二十九年年度第六十七回全国高等学校PTA連合大会静岡大会において本校PTAが「優良PTA文部科学大臣表彰」並びに「全国高P連会長表彰」の二部門で表彰して頂きました。誠に光栄であり嬉しく思います。ありがとうございます。

本校のPTA役員は、会長一名、副会長三名、監事二名、評議員十一名、幹事三名の二十名で構成されています。本校は学校名にあるとおり、「島」の高校です。この「島」は、西ノ島・海士・知夫里の三島で構成されており、校舎は海士にあります。島内の生徒はそれぞれから通学するとともに、平成二十年度から積極的に推進始めた「島留学」により、海士に移住し、寮から通う生徒も少なくありません。PTAの主な活動として、年度最初の事業

「新入学生保護者交流会」があります。島前三島の保護者の交流はもちろん、島留学をさせる島外の保護者と島内の保護者が交流を通して、子ども同士だけではなく、親同士も繋がり、島外の保護者が安心して子どもを島前高校に預けて頂けるよう、また、島内の保護者も島留学の子どもたちの親代わりとなるきっかけ作りとして、この交流会を企画しています。

九月の学園祭では学校で「交流」というテーマを掲げ、PTAでも初日の文化祭で屋台ブースの出店を行い、日頃なかなか話すことのできない生徒たちと交流を行いました。二日目の体育祭では保護者の参加競技種目もありました。日頃の運動不足がたたり、走る競技ではなかなか高校生には勝てませんでしたが、綱引きなどのパワー種目では、まだまだ子どもたちは負けません。体育祭の中で島内外の保護者間の交流、生徒と保護者の交流など、様々な交流ができ、有意義な「祭」となりました。

本校では体育祭終了後、後夜祭（火の集い）が行われます。例年では体育祭終了後から後夜祭開始まで、パンをそれぞれのクラスで食べ、後夜祭につなげていました。しかし、この時間に何か保護者や地域の方々と「交流」が出来ないか、と生徒会から話を投げ掛けられ、生徒会と何度か話し合いを進めた結果、保護者（お母さん方）がオニギリを握り、少ない時間ではあるものの、そのオニギリを生徒・保護者・地域の方・先生方が一つの輪になって食べながら、思いを語り合いました。初めての試みでどうなるものかなと思っていました。生徒一人一人が色々な交流の仕方でも時間を使ってくれ、先生方の協力、保護者皆さんのご尽力、生徒の頑張りのお陰で有意義な時間を過ごすことができました。生徒にとっても保護者にとっても忘れられない一日となったと信じます。

また、この学園祭一日目の夜には約二〇名の保護者さんと島親さんが集い「保護者・島親交流会」を行いました。バーベキューを行いながら親睦を深め交流し、より一層強くて太い繋がりが出来たのではないかと思います。私は本年度よりPTA会長に任命され、まだ八ヶ月弱です。今回頂きました表彰も歴代のPTA会長はじめPTAの皆様のご尽力のおかげです。今回の受賞を励みとし、今後も学校や地域、生徒たちと連携し、支えあいながらPTA活動を行っていきたいと思います。今回の表彰に際しまして島根県高P連を始め関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。



綱引き競技に保護者参加（体育祭）



120名以上が参加した保護者島親交流会（学園祭1日目）

「保護者、教職員一体となって『有徳の人』づくり」

島根県立松江南高等学校PTA会長

安部山 正一

平成二十九年年度の全国高等学校PTA連合大会静岡大会が静岡県小笠山総合運動公園エコーパにて開催され、本校PTAが「平成二十九年年度全国高等学校PTA連合会会長表彰」（団体の部）で表彰していただきました。本校PTAは、生活指導委員会、進路対策委員会、学校施設改善委員会、研修部と地区支部で組織されています。会員有志によるロード

レース大会の給水や学園祭でのジュース販売のボランティア等は直接生徒とふれあうことで生徒との信頼関係構築に大いに役立っています。また、「試験前の家族団欒鍋講座」や「テレビ生放送の見学」と話し方についての勉強会」等の研修講座、研修旅行における島根県育英会大阪学生会館での本校卒業生による寮生活紹介や前年度卒業生の保護者による進路講演会での受験報告等は、受験生の保護者としての心構えを認識するだけでなく、親子で受験を乗り切る経験を通して「家族の絆」を再確認する（時に、涙なしでは聞けない）貴重な機会にもなっています。

全国各地より九、五〇〇名ものPTA関係者が集結し、盛大に開催された今大会のメインテーマは『有徳の人』づくりでした。「子供たちの学校生活を豊かにすること」、これは私が考えるPTA活動の目的のひとつです。充実した学校生活を送れることは何より望むところです。

が、進学校ならではの学業専念のみならず、部活動や学園祭、研修旅行等を通じて豊かな人間性を育む「人間性を豊かにする」ことも念頭に、保護者（P）、教職員（T）一体となつて

「有徳の人」づくりを今後実践していきたいと思

います。今回の表彰に対し、島根

県高P連をはじめ関係各位に心よ

り感謝とお礼を申し上げます。誠に

ありがとうございます。



研修旅行（島根県育英会大阪学生会館訪問）



「ちから水」校内ロードレース大会給水

第68回全国高P連大会 佐賀大会

とき 平成30年8月20日(月)～21日(火)
ところ 佐賀県総合体育館、佐賀市文化会館大ホールほか

テーマ 「広めよう 高めよう 慈しむ心」
～きみたちがつくる希望の明日を～

※県高P連では、この大会参加者のためのツアーを計画いたします。
申込みは平成30年4月中旬の予定です。

第59回

中国・四国地区高等学校 P T A 連合会大会 山口大会

島根県から一三名参加

七月十四日(金)下関市の「海峡メッセ下関」において、第五十九回中国・四国地区高P連大会山口大会が開催された。「育て、生きる力! P T A は子ども達の応援団」今、変革の時。さらに一歩踏み出そうをテーマに、中・四国各県から千六百余名の会員が集い、熱心な協議を繰り返した。

開会行事の後、文部科学省初等中等教育局財務課長 伊藤学司氏より「これからの高校教育とP T A の役割」と題して講演があった。日本の高校生現状、学校を取り巻く環境等について述べられ、予測不能なことから「社会では「生きる力」を育てなければならぬ、またP T A は、支援するだけではなく、大人が学ぶ場でもあることを呼びかけた。

午後からは研究協議が行われ、「学校教育とP T A」「家庭教育とP T A」「山口県公



開会行事

第60回中国・四国地区高P連大会 愛媛大会

とき 平成30年7月18日(水)
 ところ ひめぎんホール(松山市)
 テーマ 未定
 ※申込みは平成30年4月中旬の予定です。

- 立高等学校P T A 連合会の活動について」をテーマに発表があった。「学校教育とP T A」では、島根県立矢上高等学校より「高校存続と魅力化」地域と学校を結ぶP T A」と題して、大屋光宏会長よりP T A の役割として
- 人的支援
- 入学希望保護者との交流
- 地区別保護者説明会への協力
- 地域連携の窓口
- 教育環境の支援

世界大会出場 会長激励費贈呈 出雲農林高校力又一部

中尾一稀さん、石原起人さん、中尾勇稀さん、大畑篤郎監督



出雲農林高校での贈呈式

県高P連では、当連合会に所属する高等学校の生徒やその生徒を指導する学校の指導者がスポーツ競技会やコンテスト、審査会等の世界大会に日本を代表して出場する場所に、その栄誉を称え、健闘を期待して会長激励費を贈呈することになっている。今年度は、チェコ共和国のラチツェで開催されたカヌー競技の国際大会「オリンピックホープス2017」に、日本代表として出場した出雲農林高校カヌー部三年中尾一稀さん、石原起人さん、二年中尾勇稀さん、大畑篤郎監督に九月五日(火)出雲農林高校校長室で須谷真二出雲農林高校P T A 会長が激励費を贈呈した。結果はカナディアンペア五〇〇mで中尾一稀・勇稀選手が五位入賞、シングル一、〇〇〇mで石原選手が七位入賞等を果たした。三人の今後の活躍に期待する。石原選手には、後述のようにチェコ遠征時の手記を書いてもらった。競技会出場だけでなく、若い時代に世界の街を知り、新たな夢を描くことは大切なことである。県高P連としては、今後もそんな生徒を応援したい。

オリンピックホープス(世界年代別選手権)を終えて

出雲農林高校 環境科学科三年 石原起人

九月十五日から十七日までの三日間、チェコ共和国ラチツェで開催されたオリンピックホープスに出場しました。私は、今まで日本以外の国でカヌーを漕ぐ経験をしたことがありませんでした。この大会に参加するにあたり、これからは長く競技生活を続けるために様々なことを学び、高いレベルで戦える選手になるためのきっかけを得ようと決めています。

また、日本人選手の中で最も良い成績を残して、今後のナショナルチーム入りを有利に進めることを目標に大会に臨みました。ラチツェの緯度は北緯五十度付近で、日本と比べると北海道よりも北に位置しています。大会会場はとても寒く、九月でも朝は日本の冬くらい気温でした。レースで万全を期すために、レースに臨む服装や直前のウォームアップは体を冷やさないことを考えて準備をしました。レースでは様々な国の選手と競うことができた。ハンガリーやドイツなどの強豪国だけでなく、どの国の選手も私より二十cm以上背が高い選手ばかりでした。なんとか食らいついてやろうと、島根で練習してきたことを思い出しながら勝負することができたと思います。その結果、一〇〇〇m競技では決勝に進出し七位でゴールすることができました。十七歳の部ということで、年代別ではあります。国際大会で順位をつけることができたことを素直に嬉しく思います。しかし、優勝した選手とのタイム差はあまりに大きく、自分は力が足りないと思います。オリンピックホープスに出場したことで競技以外の面でも様々な経験ができました。海外の選手たちと交流する中で、自分から積極的にコミュニケーションをしていく大切さを学べたことは大きかったです。今回の海外遠征で得た多くの経験を、これからの人生の糧にしていきたいと思っています。応援をありがとうございました。



オリンピックホープスでの力漕(中尾兄弟)

『PTAは学校・家庭・地域の架け橋！』
 学校・家庭・地域 総がかりで！
 まねの子どもたちを育てる！
 平成二十九年度
 島根県幼こども園・小中・高・特別
 支援PTA合同研修会

十一月二十五日(土)、松江市の八雲アルパホールを会場に、幼こども園・小・中・高・特別支援学校のPTA役員ら約百六十六名(高P連関係四十三名)が参加し、PTA活動のあり方について理解を深めた。映画監督錦織良成氏を講師に迎え、映画「白い船」の視聴、その後「インタビュertime」が行われた。以下その概要を報告する。

二〇〇一年に制作された映画は、平田市の塩津小学校の子どもたちや家族、地域の人々と、新潟直江津港と福岡博多港を結ぶ大型フェリーの船長等との心温まる交流実話を描いている。教室から見える白い船と子どもたちの交流が始まり、子どもたちは白い船へも乗船を夢見るようになる。そんな子どもたちの素直な心と温かく見守る地域の大人たちや教師の姿が明るくさわやかに描かれている。夢が叶い、乗船を果たした子どもたちと教師たちが、フェリーが通過する塩津沖で大漁旗を掲げた地元の漁船群に迎えられるシーンは感動的だった。

映画視聴後のインタビュertimeでは、インタビュアーの県しまねブランド推進課長の福岡直氏は、映画から「学校、家庭、地域の連携」「地方にあって都会にないもの」「監督の子育て論」「ふるさと教育と体験学習」「子どもたちの自尊感情の醸成」などに関係するシーンを切り取り、錦織氏の思いに聞いた。錦織氏は、「総がかりで子どもたちや学校を支えようとする保護者や地域の絆、漁師という経験から得た命の大切さを伝える大人たち、子どもたちを豊かに成長させる地域



研修会の様子
 の行事や自然体験など、島根には地域の人々の想いや日常の営みが残っており、それを教育に生かすことが大切ではないか」と話し、PTAが学校・家庭・地域の架け橋になることの意義を強く感じた研修会となった。

平成二十九年度 県教委との
 意見交換会



意見交換会の様子

十一月九日(木)に大屋光宏会長以下八名の役員が市町村振興センターで、県教委の鴨木朗県教育長以下八名の職員と意見交換を行った。テーマは「よりよい「しまねの高校教育」のためにPTAにできること」で自由に意見交換する形式で行われた。以下は、その概要である。

【1】教員の多忙化と部活動の在り方について
 土日も活動したり、経験の乏しい部活動を担当したりで多忙感や心理的な負担も高まっている。外部指導者制度の活用を進めたり、また、教員の意識改革も図る必要がある。県教委では、「部活動のあり方検討委員会」を設置し、部活動の改善の方向性や望ましい指導の在り方等の検討を行っている。

【2】今後の県立高校の在り方検討委員会における方向性について
 統廃合基準に象徴されるクラス数や定員など「器」の在り方だけでなく、普通科高校と専門高校の違いや学校が置かれた地域の実態等を踏まえた高校教育の特色・魅力化を図る

視点で検討が進んでいる。

【3】教育の魅力化について

県外への生徒募集だけでなく、教科指導等の充実も図り、教育の魅力化を図るため、魅力化を推進する教員を配置する方向で検討している。在籍している生徒の高校に対する満足度は高いが、地元の中学生や保護者の認知度は低いので、高めることが大切である。また、県内の高校で学ぶとどういふ力がつくか、きちんと図る物差しがあればよい。

【4】高大の連携について

教育の魅力化は高校だけで終わらないことが大切。高校卒業後も島根で学びたいという生徒の期待に応え、大学や専門学校との連携が重要となる。県内の大学・短大でも「地域貢献人材」の育成を図るプログラムが充実してきた。

【5】地元を支える人材づくりについて

地元にも約八、〇〇〇社の企業があり、地域を支えている。人材の県外流出を防ぐため、地元企業の魅力を生徒・保護者へいっそう情報発信し、意識を変えることが必要だ。進学を考える保護者への「企業セミナー」も開催されているが、参加者が少ないので広報の充実が必要。たとえふるさとを離れていても、ふるさとのことを思う人づくりを行うことが重要である。それぞれの地域に「良さ」があるので、関係者が一緒になって、児童・生徒に良さを伝えることが地元を支える人材づくりになるのではないか。

教育の魅力化の推進や地元を支える人づくりには、学校、保護者、地域、行政の協力が大切だと感じた意見交換会であった。

第七十回全国高等学校PTA
 連合会大会島根大会準備状況

表題の大会が、二〇二〇年に島根県高P連の主管で開催されます。この準備のために県高P連では、今年度全国大会準備対策委員会を設置し、今まで三回の会合を開き協議して参りました。ここに、その大まかな大会概要・来年度準備スケジュール(すべて予定)

を掲載いたします。来年度より本格的な準備に入りますが、大会成功に向けて全員の一致団結とご協力をお願いいたします。

○大会期日 二〇二〇年

八月十九日(水) 前日諸会議

八月二十日(木) 分科会(六会場)

八月二十一日(金) 全体会(三会場)

○会場 くにびきメッセ(全体会・分科会)、松江市総合体育館(全体会・分科会)、島根県民文化館(全体会・分科会)、安来市総合文化ホール(分科会)、三刀屋文化体育館(分科会)、出雲市民会館(分科会)

○参加者 全国高P連会員約一〇、〇〇〇人
 ○来年度の主な準備スケジュール
 ・準備委員会設立(八月)
 ・大会テーマ・大会趣旨・分科会テーマ決定(十月)

・第一回会場部会・部会(十二月)
 ・各学校の業務分担、仕事内容、担当校の連絡開始

・大会概要案第一版発表(平成三十一年二月)
 ・大会ポスター・大会シンボルマーク決定(平成三十一年二月)

事務局だより

先日、二〇二一年一月から始まる大学入学共通テストの第一回試行調査の問題が公表されました。数学I・数学Aの「高校の文化祭でTシャツの価格がいくらまでであれば、購入してもよいと思うか」という問題を解いてみました。長い問題文や資料をきちんと読み、それを数式にして解かなくてはならず、今までの大学入試センター試験と明らかに異なり、見たこともない問題でした。高P連研修会の中で鈴木寛氏が仰った「入試を変えることにより高校教育を変える」を改めて実感する問題でした。この改革により「二十一世紀を担う子どもたちが「板挟み」や「想定外」を乗り越え、たくましく生きていけるように」と願わざるをえません。

本年もいろいろとお世話になりありがとうございました。良いお年をお迎え下さい。